
血液透析(HD)患者の死亡率において認知症は糖尿病(DM)の有無よりも強く関連する可能性がある - Mini-Mental State Examination ;MMSE による解析

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香 中村麻美 白井美千代 林田征俊 丸山祐子 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司
船越哲

【目的】

65 歳以上の血液透析患者に MMSE を実施し、糖尿病(DM)透析患者の認知機能と生命予後に関与する因子を調査する。

【対象・方法】

当院の血液透析患者で、2016 年 3 月時点で 65 歳以上の 181 人(DM60 人・非DM121 人)に MMSE を実施し、2018 年 9 月に追跡可能であった 112 人(DM39 人・非DM73 人)に再度 MMSE を実施した。

【結果】

2016 年では認知症なし 76 人(DM22 人、非DM54 人)、認知症あり 105 人(DM38 人、非DM67 人)であり、2018 年のそれぞれの生存率は、82.9% (79.6%、90.9%)、52.4% (57.8%、49.2%) であり、認知症群で生存率の有意な低下がみられたが、DMと非 DM に差はなかった。

【考察】

HD 患者の生命予後には、DM の有無よりの認知症が与えるインパクトの方が大きい可能性がある。